

目指す学校像	「あい」あふれる教育で～あいさつ 笑顔 チャレンジ 岩槻小学校～ 【自信・自律・自立】 自己の能力(よさ)を最大限発揮できるように、「チャレンジ」の気運を醸成する。笑顔あふれ、一人ひとりが輝く学校
--------	---

重点目標	1 ICTを基盤とした「個別最適な学び」と「協働的な学び」を運動させた授業改善・推進 2 一人ひとりの多様な幸せ(Well-Being)を大切にする、安心・安全システムの構築 3 コミュニティ・スクールとしての方策の共有と行動(家庭・地域・関係諸機関との連携) 4 同僚性の向上による働き方改革の推進と質の高い教職員の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成 (8割以上)
成	B	概ね達成 (6割以上)
度	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価		年度評価		学校運営協議会による評価		
年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価		実 施 日 令 和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○昨年度の全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査では、国語、算数ともに、前年度より若干向上したものの、全国・市平均と比べると良好とはいえない状況にある。 ○全国学力・学習状況調査で、「国語の勉強が好きだ」「算数の勉強が好きだ」のアンケート項目では、肯定的な回答をした児童の割合は、国語、算数共に市平均と同程度であった。 ○自分の考えを根拠をもって説明したり、自信をもって発表したりする児童が増えた。 (課題) ○既習内容を、1時間の学びに確実につなげ、「自分の考えをしっかりとつこと」「自分の考えを表現すること」を中心に授業を展開し、学力を向上させる。 ○普段の授業の中で、自分の考えを筋道立てて表現し、達成感・充実感を味わえるようにする。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の運動による授業改善及び学力向上 ・ICTを基盤する授業実践の構築	①「学びの指標」を踏まえた、児童が主体の授業づくりに取り組む。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の運動による「R6 岩槻小 スタンダード」を積極的に実践する。 ②全国学力・学習状況調査について、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自己採点を行い、自らの学習状況を把握できるようにする。	①「学びの指標 主体的な学び」が3.4以上となったか。学校評価教職員アンケートで、学力定着に関する項目の肯定的な回答の割合が、90%以上となったか。 ②児童が自己採点の結果や自らの学習状況を基に課題をつかみ、目標を立て(100%)、達成のために努力する。結果として、市学習状況調査の達成率が昨年度より向上したか。				
2	(現状) ○誰もが居心地のよい(Well-Being)という視点で、教育環境を改善した(大イチョウ全校落ち葉拾いキャンペーン、築山での遊び)。 ○学校や教室に行きづらい児童のための学習スペース(なかよしルーム)の整備が完了した。 ○昨年度の学校評価児童アンケートで、「学校に行くのが楽しい」の項目に肯定的な回答をした児童は86%であった(3年間平均87%)。 ○安全点検は毎月確実に実施され、緊急的な不具合に対する修繕はすぐ行っている。 (課題) ○専門職からの報連相を確実に行う。専門職からのアドバイスを、適切なタイミングで、組織的に生かしていきたい。 ○安心して学べる環境づくりという視点での工夫改善を積極的に行う。	・誰もが安心して学ぶことができる、組織的なサポートの実現 ・一人ひとりの多様な幸せ(Well-Being)を実現する教育環境づくり	①一人ひとりをしっかりと見つめる教育を展開する。緊急案件等は未然防止に重点を置く。発生時は管理職・生徒指導主任を中心に組織で迅速に対応する。 ②SC、SSWからその日のうちに確実に報告を受け、その後の対応等に生かす体制をつくる。 ③スクールダッシュボードを活用した個人面談を実施する。	①日頃、報連相が確実に行われたか。緊急案件発生時は、関係者をすぐに招集し、迅速かつ組織的に対応できたか。 ②勤務時間内に、確実に報告が行われ、情報共有できたか。学校評価保護者アンケートの関連項目で肯定的な回答の割合が85%以上となったか。 ③スクールダッシュボードを活用した個人面談を実施できたか。				
3	(現状) ○岩槻中、太田小と合同の学校運営協議会では、目指す児童の姿について熟議を行った。「かしこく生きる力」「伝統を愛する力」を身に付けた児童生徒を地域全体で育てていくことを共有した。連携の具体策についても熟議した。 (課題) ○学校運営協議会4年目ということで、さらに熟議を重ね、「身に付けさせたい力」の育成に向けた方策をしっかりと見極め、継続的かつ具体的な行動に移していく。 ○地域諸会議(防犯ボランティア会議等)で、課題を共有し、課題解決のために行動したい。	・コミュニティ・スクールが目指す児童の姿を共有するための教育活動の公開 ・登下校時を始め安全上の課題を早期に解決する体制強化	①ホームページや学校だよりで教育活動を公開し、児童の活動の様子を知ってもらうと共に、学校運営協議会の取組についても、保護者と共有する。 ②運動会や授業公開等、地域の方に教育活動を公開し「地域と共に生きる学校」への関心を高める。	①1週間に1回以上ホームページを更新できたか。また、学校評価保護者アンケートで、「学校は情報を積極的に発信している」と回答する保護者の割合が85%以上となったか。 ②地域の方への教育活動公開を年2回以上実施できたか。				
4	(現状) ○学校課題研究のステージを理論から実践研究に進め、一人ひとりが主体的に取り組んでいる。 ○教職員が互いを認め合える人間関係ができていく。職員室の雰囲気は明るい。 (課題) ○教職員のキャリアステージやライフスタイルに応じて、より一層主体的かつ計画的に研修に取り組む。 ○心身をリフレッシュさせ、明るく元気に働く姿を児童に見せていきたい。	・「学び合い、高め合う」学校課題研究の実施と、やりがいを感じる職場環境の実現	①学校課題研修として、全員参加の授業研究会を年3回以上実施し、深い学びの実現に向けた授業改善について協議する。 ②時間のもち方を工夫し、時間外在校時間を前年より減らしながらも、キャリアステージに応じた研修に主体的に参加し、パフォーマンスを向上させる。 ③教職員事故防止、危機管理対応に関する研修を実施し、「自分事として」考え、対応力を向上させる。	①校内授業研究会を年6回以上実施すると共に、明確にした成果と課題を、授業改善に役立てることができたか。 ②学校評価教職員アンケート「指導力向上」に関する項目で、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。時間外在校時間が減少した教職員の割合が80%以上であったか。 ③教職員事故防止、危機管理対応に関する研修を年間4回以上実施できたか。教職員事故が0であったか。				

学校運営協議会による評価
実施日令和 年 月 日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等